



幕末維新期の宗像と志士 続

早川勇・徳重正雄と志士たちの邂逅（かいこう）

『新修宗像市史』近世部会から

以前、時間旅行ムナカタ第81回で「幕末維新期の宗像と志士、早川勇と徳重正雄」についてご紹介しました。今回はその続編ということで、幕末維新期の宗像の画期である五卿の西遷（せいせん）について、宗像の志士 早川勇・徳重正雄と五卿や、五卿の西遷の周旋（しゅうせん）で赤間宿を訪れた西郷隆盛や中岡慎太郎ら志士たちの邂逅（かいこう）と彼らの交流や奇縁について改めてご紹介したいと思います。

早川勇と西郷隆盛、中岡慎太郎との交流

宗像の志士、早川勇（養敬）が、月形洗蔵ら筑前勤王党の同志や薩摩藩士の西郷隆盛（吉之助）や土佐藩出身で五卿の随従者でもあった中岡慎太郎（石川清之助、大山彦太郎など変名）らと共に、薩長和解や五卿の西遷の周旋に尽力したことはよく知られています。

早川勇は、元治元（一八六四）年十二月四日に西郷隆盛（大島三右衛門）と中岡慎太郎を仲介して、豊前小倉で対面させています。『三条実美公履歴』などによれば、中岡慎太郎は「筑前人・寺石貫夫」と名乗り、

早川勇の従僕として西郷に面会し、五卿の西遷やその処遇について談判し、真意を確かめています。その際、中岡は会談が決裂すれば西郷を刺殺する覚悟でしたが、相撲談義にも花を咲かせ、お互いの人物や志に感服し意気投合したようです。

徳重正雄と五卿、西郷隆盛との交流

また、宗像には、早川勇や月形洗蔵の知遇を受け、西郷隆盛などとも交流した志士、徳重正雄もいます。徳重正雄は、古くは宗像氏の家臣で江戸時代は徳重村の庄屋役を務めた石松家に生まれ、幼き頃より向学

心があり、志の高い青年でした。若き日の徳重正雄は、赤間宿や太宰府に滞在した五卿・三条実美公とも交流があったようです。

『宗像郡誌』、上妻国雄『宗像人物風土記』、『宗像史話伝説』など郷土資料の「徳重正雄伝」によれば、元治二（一八六五、慶応元）年一月、

二月、赤間宿の御茶屋に滞在した五卿の給仕役として、父・伴六と共に召し出されて一首の和歌に五卿との邂逅の感懐を託し、五卿の一人、三条実美公に勤王の志を披歴（ひれき）したそうです。後日、太宰府に移転した三条実美公より絹布に書かれた和歌「如何にして筑紫の海に寄る波の千重の一重に君につくすぞ」を御礼に贈られたようです。この間に、五卿・三条実美公や早川勇を通じて、五卿の西遷の周旋のため赤間宿や太宰府などを訪れていた西郷隆盛に知遇を得たとも考えられます。

その後、徳重正雄は筑前国福岡藩を脱藩（出奔・しゅっぱん）し、鹿児島に遊学し、藩校造士館に入学します。鹿児島で滞在中は西郷隆盛や太宰府での五卿の警衛や周旋を担当した薩摩藩士、大山綱良（大山格之助、後に鹿児島県令）などとも交流し、藩費で生活費を支給されるな

ど破格の待遇だったようです。また、明治十（一八七七）年西南戦争の際には、西郷の恩義に報いるため、平岡浩太郎ら同志と福岡の変に参画し応援に駆け付けようとはしますが、事前に露見し、大阪の実業家・大三輪長兵衛家に潜伏しています。

そして、徳重正雄は、大三輪長兵衛が発起人の大阪第五十八銀行の創立・同博多支店の事務統轄や条約改正を議題とする有志会議「筑前共愛会」への参加、宗像郡から福岡県議会議員に選出されるなど、ヨーロッパ留学の経験や交流人脈を活かし、国際人として大きく飛躍します。

同志 早川勇と徳重正雄との交流

徳重正雄と郷土の先輩、師匠でもある早川勇との交流は明治維新後も続いていたようです。早川勇は明治政府、特に三条実美公らの招請で東京に移住し、元老院書記官などの官職も歴任しますが、地位や名誉、理財を求めず、上京してくる郷土出身学生への援助や、「宗像郷友会」の結成・『郷友雑誌』の創刊にも関わり、後進・人材育成や育英事業に力を注いでいたようで、徳重正雄もその支援を受けています。

徳重正雄は、晩年は病弱で療養生

活を余儀なくされ、その著書『為替手形 約束手形条例註釈 完』（明治十六年・一八八三年刊）の著書奥付には「早川勇方寄留」とあり東京府京橋区三十間堀の早川勇邸にも療養のため寄寓していたようです。まさに二人は、生涯を通じた師弟関係、同志であったようです。

宗像高校の同窓会館の四塚会館には宗像郷土館に由来する郷土資料の所蔵・展示もあり、早川勇や徳重正雄、五卿関連の資料もあります。また赤間宿の「街道の駅 赤馬館」には早川勇関連資料や五卿の和歌短冊など「明治維新と赤間宿」の展示コーナーがあり、宗像の幕末維新时期について知ることもできます。

早川勇ゆかりの吉武地区では、「維新の志士 早川勇顕彰碑」があり、毎年七月に「早川勇生誕祭」も開催され、「維新の志士早川勇先生顕彰会」や「よしたけ八の会」、吉武地区コミュニティ運営協議会や吉武自治会など市民有志が語り部として活動しています。また『マンガで読む 維新の志士 早川勇伝』など郷土資料も活用され、人物顕彰や地域学習に取り組んでいます。ぜひ、新時代に向けて国事周旋に奔走した郷土の人物について、彼らの人物

誌や人脈の系譜、志を地域で継承し、次世代の人々、日本の未来へ伝えていきたいと思います。

早川勇や徳重正雄など幕末維新时期の宗像の志士に関する歴史資料や郷土資料などの情報を、新修宗像市史編さん事務局にぜひお寄せ下さい。

（近世部会長 竹川克幸）



（左から）野村和作・三条実美・早川勇 集合写真（古川一男氏提供）



早川勇歌碑「国の為 ふかき心をつくしかた身はよせかえる 波にまかせて」（吉武地区、元内閣総理大臣 佐藤栄作書）

【参考文献】

- 宗像市史編纂委員会『宗像市史 通史編 第二巻 古代・中世・近世』宗像市、一九九八
- 伊藤尾四郎『宗像郡誌 上』臨川書店、一九八六
- 田中幸夫『郷土宗像第三輯』福岡県宗像高等学校校友会、一九三五
- 伊豆凡夫「徳重正雄君を懐む」『宗像』第百号、宗像会、一九一五
- 上妻国雄『宗像人物風土記』一九六八
- 宗像大社々務本局「宗像」編輯部『宗像史話伝説』一九六九
- 赤間地区歴史・観光ガイドブック編集委員会『赤間地区歴史・観光ガイドブックつたがたけ』赤間地区まちづくり推進協議会、二〇〇五
- 江島茂逸『従四位 早川春波翁来歴 完』一九〇五
- 松垣元吉『早川勇伝』維新の志士早川勇先生顕彰会、一九六八
- 占部玄海『郷土歴史資料叢書 第一輯 五卿西遷―早川勇とその群像―』文化企画 蘿山房、一九八五
- 栗田藤平『雷鳴福岡藩 草莽早川勇伝』弦書房、二〇〇四
- 占部玄海・占部華生『黒田藩宗像出身勤王の志士 早川勇』權歌書房、二〇一六
- 川口芳実・前山泉『マンガで読む 維新の志士 早川勇伝』維新の志士 早川勇先生顕彰会・宗像市吉武地区コミュニティ運営協議会、二〇一八
- 宮地佐一郎『中岡慎太郎 維新の周旋家』（中公新書）、中央公論社、一九九三
- 葦津泰國『大三輪長兵衛の生涯―維新の精神の夢にかけて』葦津事務所、二〇〇八
- 石瀧豊美『玄洋社発掘―もうひとつの自由民権―』西日本新聞社、一九九七
- 石瀧豊美『玄洋社 封印された実像』海鳥社、二〇一〇
- 竹川克幸『幕末維新期の宗像の志士徳重正雄と西郷隆盛』『敬天愛人』三十七号、西郷南洲顕彰会、二〇一九